

番 号 1

平成24年 2月29日

仙北市議会議長 佐藤 峯 夫 様

仙北市議会議員 11番 荒木田 俊 一

		平成24年 2月29日 午前 8時30分 受領
発言通告書	発言の種別	一般質問
発言の要旨		備考
<p>I 23年度の施政方針に掲げた目標の達成度はどう検証されたのか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 地域に活力を取り戻す2. 医療・福祉環境の構築3. 市民所得の向上4. 高齢者と子育て支援5. 23年度を振り返り24年度の施政方針にどう活かされるのか。 <p>II 農政について</p> <ol style="list-style-type: none">1. 所得を向上させるためのプロセス、工程が明確でないが必要ではないか。 栽培作物の構成、従事者の育成、地域の位置づけ、成長戦略等2. 戸別所得補償経営安定推進事業について<ol style="list-style-type: none">① マスタープラン作成で地域内の軋轢は心配ないのか。② マスタープラン検討委員に概ね3割以上の女性のめどは。3. 種苗交換会開催への取り組みについて 主たる目的は、産業の活性化・起爆剤としての取組なのか 経済の波及効果が目的なのか。 <p>III 第29回国民文化祭・あきた2014の取り組みについて</p> <ol style="list-style-type: none">1. 現在の取り組み状況について2. 市実行委員会の設置、実施計画（案）策定について3. 市内の施設、設備環境は対応できるのか。 <p>IV 職員の派遣および人事交流について</p>		

1. その目的は何なのか、効果はあるのか。
2. JAと行っている市からの派遣は目的を達しているのか。

V 災害廃棄物の受け入れについて

1. 受け入れについて議会、市民、地域への説明手順、資料等について
準備不足の感があるが市としては十分と捉えているのか。
2. 今後の具体的な進め方は

上記の通り通告します。

番 号 2

平成24年 2月29日

仙北市議会議長 佐藤 峯 夫 様

仙北市議会議員 12番 安藤 武

		平成24年 2月29日 午前11時15分 受領
発言通告書	発言の種別	一般質問
発言の要旨		備考
<p>税の不正処理問題について</p> <p>1) 住民の知る権利</p> <ul style="list-style-type: none">① 前副市長の引責という「負のイメージ」をどう考えるか。② 市長は市の姿勢に対して、市民の反響をどう捉えているのか。③ 合併当初から不正処理が発覚していなかったのか。④ 旧角館町の監査委員の監査室または、事務局がなぜなかったのか。⑤ 当時会計課と税務課の関連が疑われているが、どういうことか。 <p>2) 不正行為の解明</p> <ul style="list-style-type: none">① 「組織ぐるみ」とは、どの範囲をいうのか。② 2回も処分を課された職員もいるが、この処分に不服はなかったか。③ 今、調査中の事案が終了後の対応はどうなるのか。④ 職員OBも含めた返還会の内容と、協力は得られるのか。⑤ 全容解明のための法的手段を取らないのか。		
上記の通り通告します。		

番 号 3

平成24年 2月29日

仙北市議会議長 佐藤 峯 夫 様

仙北市議会議員 5番 狐崎 捷 琅

		平成24年 2月29日 午前11時40分 受領
発言通告書	発言の種別	一般質問
発言の要旨		備考
<p>(質問1)</p> <p>国のスポーツ基本法の制定に基づく本市の総合型地域スポーツクラブの取り組みについて</p> <p>昭和36年に制定されたスポーツ振興法が50年ぶりに改正され、「スポーツ基本法」という法律が制定された。</p> <p>この「スポーツ基本法」の大きな柱に生涯教育があり、それを推進していく上で、総合型地域スポーツクラブの育成が急務とされ、現在秋田県各市町村に、最低1つの総合型クラブが作られている。本市では、次の目標の中学校区に1つに向けて、住民やスポーツ振興課の努力によって、現在4つまで設立されている。あと、神代中地区に1つ作れば100%となり目標達成である。ただ、未だ、仏作って魂を入れていない状況が目立つ。</p> <p>折角住民が立ち上がって総合型クラブを作ったのだから、もう少し街づくりの「協働」の精神に立って、市が努力してくれれば魂(ソフト面)が入るものと思う。その観点に立って質問したい。</p> <p>① 西木の西明寺地区にNPO法人アクアスポーツクラブが総合型として立ち上がったが、拠点場所で難航しているようだが、どうなっているか。</p> <p>② 総合型のキーワードは多世代・多種目・自主自立であるが、西木(桧木内地区)の総合型クラブの自主・自立運営に対して、どのように関わっているか。NPO法人取得の見通しと、その指導はどうなっているか。</p> <p>③ 神代中学校地区の総合型の取り組みの見通しは？</p> <p>④ NPO法人になると、トト(サッカーくじ)から事業費等の助成があるが90%助成で10%はクラブで負担しなければならない。どのクラブも財政難である。この10%は補助すべきでないか。</p>		

(質問 2)

再度DMV (デュアル モード ヴィークル) について質問したい。

DMVについては、前にも一般質問した。今回はDMVの実証実験を終えた富士市を会派で視察してきたが、その視察を念頭に入れて質問する。

現在内陸線は赤字続きだが、この赤字線解消に役立つ方法として、内陸線に導入するための実証実験を行ったらどうか。

(提案理由 1)

内陸線乗客の少ない時間帯にDMV (28人乗り、3台まで連結可能) を走らせることにより、経費の節約が見込まれる。

(提案理由 2)

観光に利用できる。例えば、角館から田沢湖をまわり、上桧木内を通過して角館あるいは鷹巣方面へなど、様々なルートが考えられる。途中、山菜採りや歩くスキーツアーなど、様々なアイデアが考えられる。

(提案理由 3)

実証実験をやることにより、多くの人々が視察に訪れる。

実証実験の貸し出し車両は1年間2,000万～3,000万円。

車両の値段は3,000万～4,000万円。

(質問実証実験中も料金を取ることも可能)

(質問 3)

駒ヶ岳の温度が上昇している。使用に耐える温度計が1つ足りない。早急に特注温度計を補充する必要があると思うがどうか。さらに、観測結果をアルパ駒草に展示していく方法が考えられないか。

(質問 4)

外国人の山林買い占め禁止の条例をつくるべきと思うがどうか。

(質問 5)

仙北市と秋田フライングクラブと防災協定を結んだらどうか。

上記の通り通告します。

番 号 4

平成24年2月28日

仙北市議会議長 佐藤 峯 夫 様

仙北市議会議員 19番 高 久 昭 二

		平成24年 2月29日 午前 8時30分 受領
発 言 通 告 書	発言の種別	一 般 質 問
発 言 の 要 旨		備 考
1 門脇市長のマニフェストと今、市民が求めていること (1) 門脇市長のマニフェスト検証と市民生活路線バス廃止等について (2) 市民「全体の奉仕者」の立場に立った職員研修及び人事異動と市職員間の融和について		
上記の通り通告します。		

番 号 5

平成24年 2月29日

仙北市議会議長 佐藤 峯夫 様

仙北市議会議員 20番 稲田 修

		平成24年 2月29日 午前 9時45分 受領	
発言通告書	発言の種別	一般質問	
発言の要旨			備考
<p>総務関係</p> <p>① 旧角館町の所得税の不正還付問題について (イ) 当時の最高責任者として道義的責任 (ロ) 職員の処分について</p> <p>福祉関係</p> <p>② 過去の質問についてその後の経過 (イ) 少子化 (ロ) 高齢者 (ハ) 市民サービス、人口減少の対応</p>			
上記の通り通告します。			

仙北市議会議長 佐藤 峯夫 様

仙北市議会議員 7番 阿部 則比古

		平成24年 2月28日 午後 5時27分 受領
発 言 通 告 書	発言の種別	一 般 質 問
発 言 の 要 旨		備 考
<p>1 市立角館病院改築について</p> <p>(1) 市立角館病院の改築場所は、市民にとって、市内唯一の救急病院としての役割上、当然、仙北市内の人口分布の重心点を考慮すべきである。</p> <p>市内を縦横に国道46号線、105号線が走っており、その交点である小松城廻り地内が、この重心点到極めて近く、しかも建設地として申し分ない土地がいくらかでもあり、建設に最適と思われるが、なぜ候補地として考慮されなかったのか？</p> <p>(2) 本市は年間400人とも言われる割合で、人口が激減し続けており、今後、この傾向が加速されこそすれ、改善されるとは到底思えない。</p> <p>こうした状況下で、合併後、それなりの年数を経たことでもあり、特に財政上の問題からも、本市の医療体制の再編に腰を据えて係らなければならない時に、救急病院として文字どおり市民の生命を守る基幹病院をなぜ2方向に大きな川に囲まれた交通の便の悪い、他市との境界に建設しなければならないのか？</p> <p>これでは医療体制の合理的な再編は、今後、半世紀に渡って不可能になる。</p> <p>救急車の到達時間にしても、角館地区、西木地区、田沢湖地区に大きな開きがあり、しかも、角館、田沢湖は高規格救急であるが、西木地区はまだ実現していない。</p> <p>通院の利便性や費用に関しても、西木地区、田沢湖地区の患者は、不当な犠牲を強いられる。</p> <p>(3) 今、自治体病院の経営が、医師不足や医療制度、財政面の問題から専門家の間でも、「市町村のような病院経営の素人が、うまくやっっていけるような経営環境下でない」と断言する意見も多く聞かれる。県内で、どこもかしこも医師不足で苦しむ中で、特に仙北市と大仙市が深刻な状況にある。</p>		

今後10年間は、こうした状況が続くとされる中で、市立角館病院は、いずれ救急医療体制が維持できなくなるのでは、との専門家の指摘もある。

こうした背景を十分に理解しながら、本市が厳しい財政状況下、2つの自治体病院を抱え続けることは、市民に対する欺瞞である。必要とされる質の高い医師や麻酔医、看護師等が今後とも確保できない現況下で、当然市民は、中途半端な病院を敬遠し、他に流出し続ける。

このままでは、新市立角館総合病院の重い起債の償還に喘ぎながら、市立田沢湖病院の止め処もない出血に、怯え続けなければならない。

ここは、人材も資金も設備も医療器材も一極に集中し、少しでも全市民に質の高い医療を提供するように努めるのが行政、或いは政治家としての当然の責務ではないのか？

後世の批判に全く耐えない、こうした分かり切った愚策を、なぜ遂行しようとするのか。

2 今後の財政のありかたについて

市民が激減し続ける中、自主財源が今後大きく落ち込み、当然、交付金も人口減少に伴って削減される。先行きの展望がないまま、なぜ職員の採用を増やしたのか？

このままでは、今後、歳入歳出に占める人件費の総体比率が高まり、財政の硬直化が加速する。今後の職員採用に当たってはよほど慎重にあるべきではないか？

その他、財政運営全般にわたって中長期展望に欠けるのではないか？

3 所得税の還付不正請求等に関する職員の処分について

一般の職員の処分は、特に6ヶ月、3ヶ月の停職処分に対しては、いかにも割り切れない苦しい思いばかりが残ったが、果たして妥当な処分だったと言えるのか？

4 直下型地震に備えて

先の大震災以降、内陸部の地殻ストレスが急激に変化し、仙北市においても今後マグニチュード7ないし7.5程度の直下型地震の発生が懸念される。

幼稚園、保育園、各学校、老健施設などの公的施設の倒壊に備えて、施設近くの建設会社に、ある程度の補助金を出して、大型バックホーに装着するフォークを備えさせるつもりはないか？

上記のとおり通告します。

